

平成9年度 和歌山県文化賞

谷口 維紹

住所：東京都文京区

出身地：和歌山県有田郡清水町

生年：昭和23年

◎業績及び経歴

氏は、昭和46年東京教育大学理学部生物学科卒業後、渡欧し、イタリア・ナポリ大学に学んだ後、スイス・チューリッヒ大学大学院に入学し、同大学分子生物学研究所でバクテリオファージの研究により博士号(Ph.D.)を取得する。

昭和53年頃よりウイルス増殖抑制因子として知られていた、IFN(インターフェロン)の研究者たちと出会い、IFNに関心を抱き、帰国後、癌研究会癌研究所(東京)でIFNの分子生物学的研究を本格的に開始した。

当時、IFNを始めとする、サイトカインと総称される人体が持つ免疫力を調整する因子群は、その存在は知られていたが実体については未だ不明であった。

氏は、サイトカインの実体について遺伝子レベルでの研究を世界に先駆けて実施し、昭和54年には、世界初のヒト β 型IFN遺伝子の単離に成功し、その実体を解明した。

更に、昭和58年にはリンパ球増殖の鍵を握るIL-2(インターロイキン2)の遺伝子の単離、構造解明にも成功するとともに、これらサイトカインの遺伝子工学的手法を用いた大量生産の基礎を確立した。

これら氏の一連の業績は、ウイルス疾患、自己免疫疾患、癌などの人類を脅かす病に対し、遺伝子組み替え型サイトカインにより、その克服を目指す大きな第一歩となった。

氏の研究は、その後国際的に大きな展開をみせ、幾多にも及ぶサイトカイン分子群の遺伝子レベル

での研究の端緒を開くこととなり、医学の進展に多大の貢献をした。

氏は、欧州からの帰国後、癌研究会癌研究所、大阪大学細胞工学センター教授を経て現在も東京大学で、IFN、IL-2を中心にサイトカインと病の関わりや如何にして治療につながるか等、分子生物学により人々が病を克服するための研究を弛むことなく続けている。

我が国を代表する分子生物学者であり、免疫学の分野において数々の業績を持つ氏は、本県の誇りである。

■現在

東京大学教授大学院医学系教研科、
医学部免疫学講座

■主な表彰歴等

昭和53年 チューリッヒ大学
Doctor of Philosophy
(Ph.D., 理学博士)
昭和56年 日本生化学会奨励賞
昭和58年 第1回癌研学術賞
昭和60年 第29回野口英世記念医学賞
昭和61年 第4回ハマー賞(アメリカ)
昭和63年 第5回ベーリング・北里賞
(ドイツ、日本)
昭和63年 ミルスタイン賞
(国際インターフェロン学会)
平成元年 朝日賞
平成元年 大阪科学賞
平成元年 和歌山県文化奨励賞
平成3年 ロベルト・コッホ賞(ドイツ)
平成8年 第37回藤原賞
平成9年 第2回慶應医学賞